

# 「雇用」に期待「司法を軽視」

## 高浜に賛否交錯

### 再稼働 知事同意

関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の再稼働に二百、西川一誠知事が同意した。立地する高浜町では「雇用の場が生まれる」と歓迎し、野瀬豊町長も評価。一方、広域避難計画への不安や運転差し止めの仮処分に対する福井地裁の判断前同意に反対の声も上がった。■面参照

（平井孝明、高橋雅人）

高浜町商工会の田中康隆（こう）と評。住民避難計画の实效性を高めるため、町内の地域ごとの避難訓練を年度内に実施する考えも示した。「原発は町内最大の雇用創出先なのでそれが本来の姿で動く経済的好循環が生まれる」と指摘する。野瀬町長は「二つの条件を一つ一つ確認されたうえで慎重な判断だと思

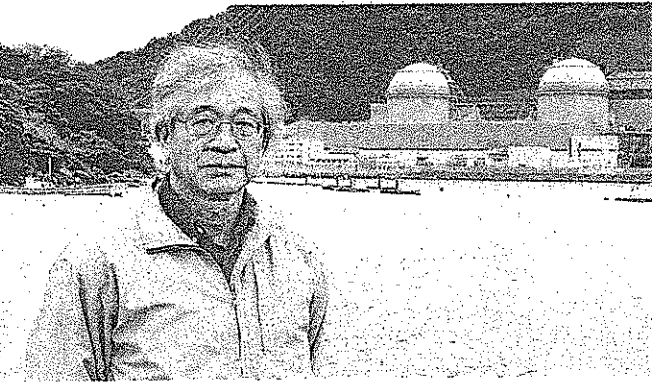
「知事がいる福井市より私たちの集落の方がずっと危険度は高い。なぜ私たちが不安の声が聞いてもらえないのか」。高浜原発から五キロ未満の京都府舞鶴市松尾地区にある松尾寺の住職松尾銀空（ぎんくう）さんは西川一誠福井県知事の判断に憤る。京都府は高浜原発から最短三キロほどで原発三基を

### 福島事故後 認識が一変

高浜原発が立地する高浜町で地道に原発反対の声を上げる男性がいる。東山幸弘（こう）さんは原子力関連施設に定年まで勤め、一原発は花形」と信じ続けた。だが福島第一原発事故を機に認識は一変、今は原発のリスクを訴える。

同町出身の東山さんは高校卒業後の一九六五、昭和四十一年、京都大原子炉実験所（大阪府熊取町）に入所。原子力の専門家ではなく、あくまで実験設備に必要な電気管理を担う事務職だったが、京大出身の原子力工学の研究者と一緒に

### 高浜の男性 リスク訴え



「停電が起きた場合、非常用発電装置からの電気の供給は絶対に途切れさせないよう」

自分がやってきた電源確保ができなくなると、どうなってしまうのかを福島事故は示した。若狭湾岸は「原発銀座」と呼ばれる集中立地地域。二〇一四年秋、おおい町の有志と四人で原発のリスクを訴える「心ある会」を結成したが、経済面で原発に依存体質は変わらない。「反対どころか原発について話しても聞きたくない」と話している。事故後、高浜町では「心ある会」が定期的に町民に原発のリスクを訴えている。町民の反応は、最初は「原発は安全だ」という声が多かったが、福島事故後は「原発は危険だ」という声が多くなった。町民の意識は大きく変わった。

## 「なぜ同意権ないの」 京都や滋賀住民に不満も

申立人の松田正（ま）さん。板井市は「司法を無視した判断は法体系を壊す」という姿勢で知事としての資質を疑う」と糾弾。「司法の良心に期待したい」と仮処分決定が持続する判断を願った。

弁護団共同代表の河合弘之（ひろゆき）弁護士も「司法の軽視も甚だしい」と批判。「容認した結果、重大事故が起きたら知事のせい。日本国民から恨まれる覚悟ができていないのか」と疑問を呈した。

同意できるような安全の確証はない。だが、原発が動きたらどうなるかはもう私たちが何を言っても届かないだろう。無力感を感じるが、原発反対の思いはこれからも訴えたい」と静かに決意している。

三十キロ圏の滋賀県高島市の市民団体代表の沢田（さわ）さん（五十）は「福島の原因究明すらされていない」と再稼働に反対している。

「自分の意見を言いたい人がこれだけいるんだ。一筋の光が見えた。地元の声なき声を広く伝え、電力の消費地の人々と語り合える機会ができればと考えている。」（平井孝明）

八木誠、関西電力社長。高浜町と県議会の意思、国の方針などを総合的に勘案して判断したのだと考へ、深く感謝を申し上げる。福島第一原発のような事故を二度と起こさないという強い決意の下、規制の枠にとどまらない原子力発電の安全性のさらなる向上に全社を挙げて取り組む。

滋賀県の三日月大造知事は取材に「避難計画を預かる県として（避難計画など）多重防護体制の構築や廃炉使用済み核燃料の処理対策などが整えられていなければ再稼働を容認する環境にはない」と断言。さらに「福島原発事故の教訓を考えると、万が一のことが起こった場合の被害の範囲は県境にとどまらない。周辺自治体の関与、同意も認められてしかるべきだ」と述べ、国や福井県、関西電力に引き続き滋賀県の立場を主張していく考えを示した。

課題解決 全力で

全国原子力発電所所在市町村協議会（全原協）会長の洲上隆博（たかひろ）教育市長。今後政府が前面に立つて原子力政策の課題解決に全力で取り組んでほしい。

判断に深く感謝

関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の再稼働に二十三日、西川一誠知事が同意した。しかし、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外立地や、県境をまたぐ広域避難計画の実効性の確保など重要な課題は棚上げされたまま。原発の長期停止で低迷する立地地域の経済対策を優先する構図は東京電力福島第一原発事故前と変わっていない。

（西尾述志 塚田真裕）

# 福島事故後も 変わらぬ構図

## 慎重姿勢

「再稼働がなぜ必要か、国の強い意志があいまいな状況だった」。この日、県庁で会見した西川知事は、高浜3、4号機が新規規制基準に適合した二月時点での政府の姿勢を振り返り、時間をかけて判断したことを強調した。

## 態度軟化

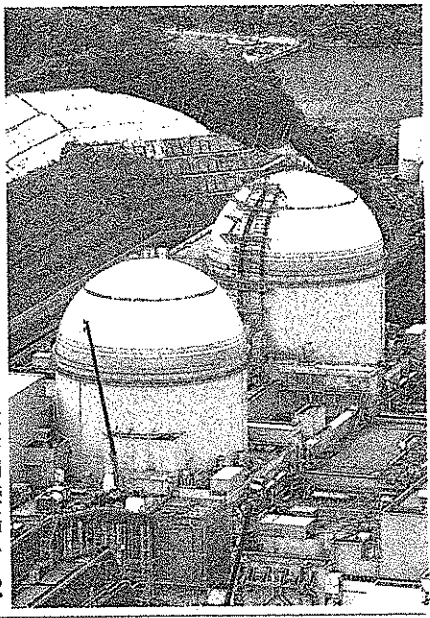
しかし、内実とは異なる。使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外立地では、関西電力が十一月下旬に二〇二〇年ごろに計画地点を確定し、三〇年ごろに操業開始すると発表したが、豊松秀二副社長が「秘策はない」と言うように裏付けはない。関西電力は反対が強い京都府内の立地は早々と断念した。電源構成の明確化では、経産省が三〇年度に原発比率を20・22%にする計画を七月に発表すると、一定の評価をした。だが、達成するには既存原発の再稼働では足りず、原則四十年度の運転期間を延長し、新増設や建て替えも必要となり、国民の反発を招いている。

## 予算確認

五条件ではないが、福井と京都、滋賀三府県にまたがる広域避難計画の策定も待った。課題が山積するため、内閣府の取りまとめが知事の予想以上に遅れ、ようやく十二月十八日に国の原子力防災会議で了承された。しかし、規制委の審査の対象外で、計画に基づく三府県合同の訓練も行っていない。

一方、西川知事は詳細設計や運転管理の認可も含めた全審査の終了を待ち、有識者でつくる県原子力安全専門委員会が「安全を確保した」と結論づけた報告書も踏まえて同意した。国には再稼働五条件を突きつ

関西電力高浜原発の03号機（手前）と04号機（高浜町）



地域への経済対策。県の民理解にしても、十一月下旬の全国知事会で安倍首相が「さまざまな機会を利用して緊密に誠実な説明を尽くす」と発言すると「評価する必要がある」と態度を軟化。林幹雄経産相が全都道府県でシンポジウムなどを開く方針を示すと、各種世論調査で再稼働への反対が賛成を上回る状況が目についた。

# 「国民理解」政治カード

- 西川一誠知事は高浜原発再稼働五条件を提示。最後まで3、4号機が新規規制基準に適合した二月から、国に再稼働五条件を示した
- ① 原発の重要性、必要性に対する国民理解の促進
  - ② 使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外立地に向けた国の積極的な関与
  - ③ 最適な電源構成の明確化と実現に向けた方針の提示
  - ④ 福島第一原発事故を教訓にした事故防止体制の充実強化
  - ⑤ 原発の長期停止で低迷する立地地域の経済雇用対策

関西電力高浜原発1、4号機まで計4基の加圧水型軽水炉（PWR）がある。3、4号機（出力各87・0万キロワット）は1985年に営業運転を開始。3号機は2010年から、フルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料を使うプルサーマル発電を行っていた。それぞれ74年と75年に運転を始めた1、2号機（出力各82・6万キロワット）は老朽原発のため、新規規制基準の適合審査に加え、40年超の運転延長審査も受けている。

「責任と自覚を」 来馬克美・福井工大教授 再稼働の判断までに長い時間を要した印象があるが、やむを得ない。その分、見るべき確認すべきことができた。知事同意はスタート。安全に安定に動かすことが必要で、これが本当の道になる。結果を出すことが大事で、県民の期待しているところ。国と県、事業者が気持ちを一つにし、責任と自覚の下、それぞれの役割を果たしてほしい。

「納得いかない」 小出裕章・元京大原子炉実験所助教 福島の事故で原発という機械が時に壊れると分かった。新規規制基準は、危険は伴うが、そこそこ安全な方がいいというレベル。事故時に一番重要な住民避難計画は新規規制基準の項目でさえない。福島では大勢が混乱の中で余計な被害を被る。事故は今も収束できないまま。それでも原発再稼働を進めるのは納得がいかない。最後は金なのだろう。

## 関西電力 異議審の決定待つ

関西電力は、西川一誠知事が「地元同意の後」としてきた高浜原発3、4号機の核燃料装填が可能になったが、二十四日に出される福井地裁の仮処分異議審の決定を待つ方針だ。

関西電力の八木誠社長は二十一日、県庁で報道陣に「仮処分（異議審）の決定が出ない限り、装填しない」との発言。県民の理解、仮処分の状況、燃料装填の準備状況を総合的に判断する」と述べた。

「原子力は再稼働のみならず防災対策、廃炉、使用済み燃料対策、立地地域の振興など課題が多岐にわたる」。十一月十八日の国の原子力防災会議で、安倍晋三首相は知事が繰り返し述べてきた文言をそのままなぞった。その上で課題解決に向け「政府は責任を持って取り組む」と明言した。知事にとって、橋本徹知事が「福井県を念頭に」と思っている。エネルギー分野での地位を国に認めさせること。エネルギー分野での地位を国に認めさせること。

# 課題棚上げ 経済優先

「納得いかない」 小出裕章・元京大原子炉実験所助教 福島の事故で原発という機械が時に壊れると分かった。新規規制基準は、危険は伴うが、そこそこ安全な方がいいというレベル。事故時に一番重要な住民避難計画は新規規制基準の項目でさえない。福島では大勢が混乱の中で余計な被害を被る。事故は今も収束できないまま。それでも原発再稼働を進めるのは納得がいかない。最後は金なのだろう。

